

県立病院を良くする会 議事録

●日 時 平成30年10月26日（金）15：00～17：00

●会 場 徳島グランヴィリオホテル 1階 ヴィリオルーム

●出席者

(委員) 青 野 透 委員 (徳島文理大学総合政策学部 教授)
石 本 知恵子 委員 (地域医療を守る会 副会長)
梅 津 友 紀 委員 (田岡病院 看護部 副総師長)
住 友 真 美 委員 ((一社) キラニコ 代表理事)
谷 憲 治 委員 (徳島大学病院総合診療部 教授)
富 田 一 栄 委員 (富田一栄税理士事務所 所長)
長 江 浩 朗 委員 (徳島赤十字病院 副院長)
福 田 博 子 委員 (三好病院を応援する会 監事)
山 上 敦 子 委員 ((一社) 徳島県医師会 常任理事)

(県) 病院事業管理者、病院局長

中央病院 (副院長・看護局長・事務局長)

三好病院 (院長・看護局長・事務局長)

海部病院 (院長・看護局長・事務局長)

本 局 (総務課長・経営改革課長・政策調査幹) ほか

●会議の概要

(病院事業管理者あいさつ)

病院事業管理者でございます。医療環境は、ますます厳しさを増しております。また、最近では、働き方改革、消費増税などの問題も出てきております。本日は、委員の皆様から色々と忌憚のないご意見、ご提言をいただきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

(議 事)

司会	<p>議事に入ります前に、今回の会議の開催趣旨についてご説明いたします。</p> <p>当会議におきましては、設置要綱第2条に規定されておりますとおり、「計画の達成状況の評価及び見直し」や「県立病院の基本理念の実現に必要な事項」について、委員の皆様に必要なご提言を頂くこととしております。</p> <p>今年度につきましては、平成28年6月に策定いたしました経営計画の2年目である平成29年度及び今年度の取組状況等につきましてご説明させていただきます。</p> <p>委員の皆様方からは、より良い病院づくりのために、様々なご意見を頂きたいと存じますのでよろしくお願いいたします。</p> <p>(委員及び病院局職員の紹介)</p> <p>(1) (会長・副会長の選任)</p> <p>それでは、これからの議事進行について会長にお願いしたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。</p>
会長	<p>皆様どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>会議の公開についてお諮りしたいと思っておりますので、事務局から説明をお願いいたします。</p>
事務局	<p>会議の公開につきまして、ご説明申し上げます。県立病院を良くする会設置要綱第5条第3項により、当会は会長が必要を認め、委員に諮った場合を除き公開とされております。また、会議の議事録についてですが、これまでと同様に事務局で作成し、各委員にその内容をご確認いただいた後、発言された委員のお名前を伏せたくて病院局のホームページ上で公開したいと考えておりますのでよろしくお願いいたします。</p>
会長	<p>ただいま事務局より説明がございましたとおり、議事録については公開するという事でしょうか。</p>
委員一同	<p>異議無し</p>
会長	<p>それでは、そのとおり決定いたします。</p> <p>議事(2)及び(3)の</p>

	<p>「徳島県病院事業経営計画の取組状況について」 「各県立病院の取組状況について」は、 事務局から、まとめて、ご説明いただき、 その後、委員の方々よりご提言等をいただきたいと思いますと考えております。 それでは、資料の説明をお願いします。</p>
	<p>(2) 徳島県病院事業経営計画の取組状況について (病院局総務課 説明)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料1 徳島県病院事業経営計画の取組状況 ・資料2 徳島県病院事業経営計画の取組状況の評価について <p>(3) 各県立病院の取組状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中央病院の取組状況 (中央病院長) ・三好病院の取組状況 (三好病院長) ・海部病院の取組状況 (海部病院長)

(意見交換)

<p>会長</p>	<p>ご説明いただきありがとうございました。 それでは、各委員の皆様方からご意見、ご提言をいただきたいと思います 思います。最初に各委員から一つずつご意見をいただきたいと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>3病院、一生懸命取り組んでいただいております、私たちの地域医療を守る 会も10年前は存続か存続でないかという感じで、土曜日救急もとまり、 小児科もなくなり、産婦人科もなくなり、そういう風な目にあって香川 先生にはお世話になっております。皆さん方の手によって10年間持ち 堪えました。地域医療を守る会も、新しく移転しました海部病院をもっ と住民に知っていただきたく、住民も当事者として一生懸命応援しない といけない、ただ住民は行政、医療、与えられるものと思っ ては、私たちの安全は守れないと、それを存続していく決意を住民にもっ と浸透していただきたく開催しています。3病院は1つということで、力強 いんですけど、海部病院の院長が、風の噂では、来年、退職なさるとい う話がある。院長は、倒れかけた病院を、持ち上げてくれている。まだ まだ常勤医の先生がいないのが現状で、今おいでる先生方が一生懸命働 いています。海部病院においては、本当に辛いものがあると傍から見て いても思われます。重石となる先生がいなくなるというのは、結果が分 かってから働きかけたのでは10年前と同じことになりますので、何と か考えていただきたい。 また、常勤の指導医がいない。若い人を育てる環境は整っていますけど、 指導医たるもの、やはり3病院が1つであれば海部病院の事も考えてい</p>

	<p>ただきたいと思うんです。3病院1つであるならば、他の病院から、常勤の指導医を廻していただきたい。週に1回、来られる先生はおりますけど、それでは、若い先生をそだてる訳にはいかない。院長がいなくなると、10年前の自治医大の若い先生が一人で看ていた状態となってしまう。それを見ているので、そのようにならないようにしてほしい。私たちも、かかりつけ医をもちましよう、在宅医療をすすめましよう、認知症と仲良くと寸劇で、住民に訴えています。住民が住民同志で、医療に迷惑をかけない、先生方に負担をかけないよう頑張っています。走らずにこつこつ歩く、医療も一緒に急激には無理だと思いますが、皆さんの努力によって10年前とは違う医療が私たちに提供されており、たくさんの方が助かっています。</p> <p>本当に感謝しきれないですが、感謝は感謝、訴えることは訴えることとして、ぜひとも、海部病院への対応をお願いしたいと思っています。</p>
<p>病院局</p>	<p>院長は、公務員ですので、定年があるということをご理解いただきたい。指導医については、県全体で、地域枠ということで、医者の地域偏在、診療科偏在を解消するために、医学生の枠を増やして、地域の方にこれから出てまいります。この指導体制をどうしていくかは、大きな課題でございます。3病院全体、徳島大学病院にもご協力いただいて、指導医がどういう体制を取っていくか大きな課題でございますので、真剣に病院局として取り組んでいきたいと思っています。</p>
<p>委員</p>	<p>国の施策としての地域包括ケアシステムの構築というところで、病床の機能分化を推進していく中で、救急医療に取り組んでいるという状況は分かりました。また、高齢化社会に向けての認知症患者さんに対する取り組みの状況もお話の中でお伺いしました。</p> <p>小児救急の受け入れについて、件数を資料で拝見しますと、数も増えているようですし、受け入れしていただけてるのは分かりますが、資料でみる数字と現場での感覚として、大きい病院で看てもらうのは、敷居が高いという考えを持っている人が多いと感じられます。</p> <p>小児救急、小児の受け入れについて、県民に向けてのアピールが広がれば、県民が遠慮無く受診できるのではないかと感じました。</p>
<p>総務課</p>	<p>小児救急については、中央病院は、小児救急拠点病院として、24時間365日の救急体制とっており、いわゆる一時救急的なところについてはふれあい健康館の方で受け入れをしていただいております。重症のところをバックアップしております。西部につきましては、三好と半田病院が当番日を決めて2病院で週7日間をカバーするという形で、南部は赤十字病院でカバーしております。小児科医、どことも厳しい状況の中で我々は重症のところをしっかりと受け入れるような形を頑張っていけないと思います。PRについては、#8000も含めてどういった</p>

	<p>形をとれるか、各病院で話をしてみたいと考えております。</p>
<p>委員</p>	<p>ドクターヘリ、災害医療であったり、最後の砦として、安心して守っていただける場所として、ハード面では、安心しているのですが、人材不足、医師不足とおっしゃられているので、職員の離職率はどのようになっているのですか？</p> <p>入ってくる人数に対して、出て行く人数が多ければ離職率も上がっていくし、人材不足もどんどん進んでいくと思います。</p> <p>安心の砦も、人がいなければ救急で運ばれた時に大丈夫なのかなという不安も出てくると思うんです。</p> <p>離職率で医師のどの分野が不足しているのか、看護師が不足しているのかという部分も資料では分からなかったので質問させていただきました。</p> <p>今日のお話の経営理念、目指す目標は、職員全体も知っているのですか？この病院がどういう風に目指しているのか、皆で目指した方が力も強くなるし、職員の離職率が高いのであれば、アンケート等を部門ごとに取り上げて、新しい人を入れることも大事ですが、離れていくことを減らすほうが早いような気もしました。</p> <p>働くお母さん、看護師や女医等が辞めて行かないような仕組み作りをしていただければ、働きやすいお母さんの戦力と場所とをしていただければ減らないかなと思いました。</p>
<p>総務課</p>	<p>医師については、県立病院、大学病院、公的病院などの全体で廻っているところがありまして、全般的に不足しているという話と思います。看護師の離職率については、今、手元に持ち合わせておりませんが、約750人の看護師のうち、今年の採用募集は18名ということで、他の病院と比べますと、離職が非常に少ないと思います。どうしても御家庭の環境で県外に移られたとかそういう形もございますが、県立の今の採用数の状況と他の病院の募集の人数を見ると定着率は高いと考えております。</p>
<p>委員</p>	<p>医師を確保するという一方で、これからの医者を確保する、若い人に来てもらうということで、中央病院で教育に力を入れるということ、ここだと思います。</p> <p>皆さん御存知のように、東京医科大の問題が大きくなって、そこで女性の医師が働きにくい、働き続けにくいということがある程度周知されていますし、その中で女性医師をどう確保するかというときに、今日たまたま移住促進のプロモーションビデオを撮りました。移住促進の短い時間の中で、徳島県の担当の方がフレーズに入れられたのが「人口10万人あたりの幼稚園数が日本一」とか「全国で初めて県下全域でファミリーサポートセンターの展開実現」というように、ここなら安心して子育て</p>

	<p>てできることを徳島は宣言する、というV S東京のなかでも、徳島なら安心して子育てできると宣言しているが、子育てしやすいのは、女性の医師たちも、安心して働きやすいというように結びつけていけないか。院内保育所も、もっとPRしてもよいのでは。徳島は子育てがしやすい、医療における子育てがしやすい、小児救急の場合に、いつでも看てもらえるということを全面に出していけば、女性の若い医師を育てるという点で、徳島が全国のトップランナーになるようなことを、5年10年かけても、やっていくべきだと思いました。そうすれば上手い循環が出来るのではないか。</p> <p>女性にターゲットを絞って育成するというやり方もあるのではないかとと思いました。</p>
<p>総務課</p>	<p>中央病院の院内保育所につきましては、定員80人で24時間保育、夜間のサポートも夜間保育という形もやる、特に看護師や女性医師についても急なときに受け入れしますという話もありますし、中央だけでなく徳島大学病院にも枠を設けて相互に徳島大学病院の職員のお子さんも保育している。PRについても、やっていることについてはしっかりやるとともに、それについての成果についてもしっかりアピールしていきたいと考えています。</p>
<p>委員</p>	<p>以前からお願いしておりました、へき地診療所への支援として、別添資料の「徳島県立3病院から、へき地診療所等への医師派遣実績」を、病院局のホームページに載せており、年間1,055回派遣しており、非常に多い。高知医療センターや香川県中は既にホームページに載せており、高知医療センターはへき地診療所のマップもつけて載せております。数の方は徳島県が圧倒的に多いようですので、非常に皆さん大変な思いをしてへき地診療所等を支援しているのだと思いました。いいデータとしますので、毎年、更新して行ってほしいと思います。</p> <p>中央病院は、海部病院と三好病院に、13診療科に年900回診療支援をしているということですが、要望として、常勤医、救急を看る医者を配置することができないのか？中央病院から海部病院と三好病院に御支援をされているという、日帰りのパートの支援が多いと思うが、それを増やすことも大事ですが、常勤医で入院とか救急を診てくれる医師、いつもいる医師というのを増やさないと常勤医に逆に負担がかかるという風にいつも思っています。パートで行く医師は、外来診療や内視鏡のような検査を主に担当していると思います。海部病院で1,000台くらいの救急がくるということですが、その何割をパートの医師が担っているのかというと、少ないのではないかと思います。中央病院から、ローテーションで、常勤医を派遣できないのかお考えいただきたい。</p>
<p>総務課</p>	<p>常勤医の確保が必要であるということは、十分認識しております。</p>

	<p>その中で、パートであったり、遠隔とかICTを使ったり、病院間での連携を図ったりという形でやっており、常勤医を確保できればという思いではあります。そこは日々努力してまいりたい。これから出てくる地域枠の若い医師を育てるという意味でも、課題として持っており、引き続き努力していきます。</p>
委員	<p>3病院ともに医療の質、経営状況に関しても上向きの状況ということで、敬服しております。公立病院は、政策医療が第一の役割と打ち出しており、ありがたく思います。お願いとして、周囲の医療機関のスキルアップに、より一層ご協力いただいて、質の高い連携が行えればと思います。すべての医師が、ワークライフバランスを保てるように県全体として組み立てていければと思います。院内保育所の医師の利用状況はどのような状況でしょうか？</p> <p>男女ともに医師で、育休の取得状況はどんなものでしょうか？高齢化社会で地域包括ケアということになりますと、生活をみる事が出来る医師となるためには、家事や育児など普通の生活体験というのが非常に重要でないかと思えます。</p> <p>評価で唯一、努力△となっている医薬品の採用品目数ですが、平成32年度目標値1,000品目以下となっていますが、達成可能なのでしょうか？県立病院の採用品目が、周辺の病院に影響を及ぼしてきますので、適切に慎重に対応していただきたい。</p>
経営改革課	<p>医薬品の採用につきましては、現在1,740品目ということで、なかなか進んでいない状況です。医薬品等のマスターが統一されていなかったことが原因と思われれます。どれくらい医薬品が使用されているのか、スケールメリットを考えまして、共同購入を検討していくのですが、医薬品のマスターが統合されていなかったため、十分な検証ができなかったと考えております。昨年9月に3病院の医薬品の統一マスターの運用を始めまして、各病院の使用実績を日単位で、共有できるようになりましたので、医薬品の統合に向けて取組を加速してまいります。医薬品の統合に当たりましては、各地域の病院にも影響を与える可能性がありますので、十分検証したうえで、実施してまいりたいと考えております。</p>
総務課	<p>保育所の5月1日現在の入所状況につきましては、定員80人に対して、中央病院67名、徳島大学病院10名となっておりますが、内訳は、手元にありませんが医師の利用も多いと思われれます。育休について、医師であっても、当然、徳島県の職員ということで、育休制度はあるということで、今まさに、国においても、働き方改革、ワークライフバランスとか議論されており、そういった制度がしっかり活用するためには、業務との関連をどうするのかということもでてきますので、そういった国の動き等も含めながら、制度がしっかり取れるように取り組んでまい</p>

	りたいと考えております。
委員	希望としまして、これからも、今まで同様、県立病院は、高度医療で、信頼できる病院であるようお願いしたいと思います。
三好病院	私たちも手術が少し減ったというのは、医師が少し動いたりしたことで、県民に迷惑を掛けたということだと思います。そういうことがないように、県立病院として、頑張っていきたいと思いますので、これからもよろしくをお願いします。
委員	県立病院は、色々な業務が改善されており、取組状況の評価を見ると、ほとんど達成で、順風満帆だと受け取れるのですが、課題となることとか、今は、これを一番、取り組みたいとかあるのではないのでしょうか。そのようなことを言っていただけると分かりやすいのではと思いました。お答えはいりませんので、感想です。
会長	定期的開催している会ですので、次回の会に反映していただきたいと思います。
委員	<p>3病院の院長によるプレゼンテーション、すごく個性と地域性が出ておりました。中央病院では、教育に力を入れて、医師を育てて、一人前になってから、地方の病院に派遣するというように受けました。三好病院、海部病院で欠けた医師を派遣するような、中央病院人事システム、キャリアシステムが、今、そうなっているのかな、機能しているのかなという感じがしました。</p> <p>次に、私は、地方の病院に行くことがございまして、今年は、人口3万足らずの離島の病院に行きました。その離島の病院に、リニアックがありまして、大赤字、宝のもちぐされというイメージを持ちました。三好病院でも、放射線治療を始めたということで、どれくらいの採算性が採れているのか気になりました。どこの県の地域構想を見ましても、公立病院の役割として、時間が勝負の脳出血、心筋梗塞については、力を入れると書いてあります。そんなに急がない分野、がん治療などについては、集約するとか、大学病院があるなら、そちらにお願いする。東京の公立病院は、がんには力をいれず、救急専門が多いと思います。そこで気になったのが、どういう戦略、ドメインをとっていくのか、どの分野に力をいれていくのか、三好病院、海部病院は、分かりにくかったです。訪問治療とか特色は出されているが、その一方で高度急性期医療も狙っている。高度急性期医療で、南部には、近くに赤十字病院がある。海部病院が日赤とどんな風に繋がっているのか、発表が無かった。三好病院は、高度な治療をここで行うのがいいのか、がんは、すぐに死なないので、中央病院で、じっくり行ったほうがいいのではないかと感じました。</p>

高度な医療機器をいれる場合、その採算性の検討がいると思います。住民の意見をすべて聞いていたら、財政的に持たない。また、三好病院は、高知も近いし、香川も近いし、その中で、地域における役割、慢性期病院や介護施設との関わりがどうなっているのかが聞けたらよかったのになと思います。

次に、女性の働き方改革。医療、介護の職場に、どうやって人を集めていくのか、これからは、お金ではなく、人がいなくてつぶれていく状況になることが多いと思います。特に、女性が多い職場なので、いかに裾野を広げるかを考えています。どうやったら、働きやすいかを考えて、保育園は3歳まで、その後が大変。学童保育にいる子供を、病院の運転手が迎えに行くなどの取組をしております。また、職員の勤務区分を分けて、フルタイム、0.8勤務、短時間勤務職員などにして、本人も働きやすい職場にする。働き方を自由に変えられる職場が、これからは、介護医療の業界にも必要なんだなと思いました。

最後に、救急の件で、大病院の急性期病院に、リュウマチ、糖尿病など慢性疾患患者が、症状が悪化して、急に、運ばれてきても、救急対応が難しいと聞いたことがあります。救急で運ばれる前に、慢性疾患をどのように対応するのか、地域との連携を、どういう風に対応していくのか考えるのが大事なのかなと感じました。

三好病院

三好病院のドメインは、救急とガンです。もう一つは、地域包括ケア、回復期患者で地域の先生方で看れない部分について、県立病院で対応している。良くなったら、地域に返すという考えです。高度医療機器、放射線については、採算性は採れておりませんが、このところは今増やしているところです。何が一番いるかという、緩和でございます。根治治療をするのではなく、緩和をしないといけない患者は、実は地域から離れられないから我慢をしていたけれど、それを骨折れる前に充てさせていただく、入院若しくは外来で充てさせていただく、そういったことに使っていくということに、一番力を入れている。緩和しないといけない患者さんの治療に、力を入れております。

中央病院

中央病院人事派遣システムは、今は、ありません。無いので、非常に大きな問題だと考えております。教育は、今まで、大学病院におまかせしてきたという状況がありました。

中央病院で、教育をしっかりと、医師をプールする場となり、それぞれの病院に医師を派遣するだけの力を持つような中央病院となるよう、10年20年先を目指して、そういう中央病院にならないと、県の医療を支えていけない、医師を確保できないと思っております。

そういうシステムを構築していくのが、我々が目指していくところだと考えております。

会長	それでは、時間ですので、これもちまして、議事を終了したいと思います。事務局にお返しします。
経営改革課	ありがとうございました。それでは、閉会にあたりまして、病院事業管理者から、ご挨拶申し上げます。

(病院事業管理者あいさつ)

委員の皆様から、様々なご意見、ご提言をいただきましてお礼を申し上げます。大変、難しい問題ばかりでございますが、ご意見、ご提言を参考にいたしまして、医療の質の向上、経営基盤の充実を図っていきたく思いますので、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。本日はありがとうございました。